

## <<平成 11 年前期のイカ釣り漁業の動向>>

平成 11 年前期 (1~6 月) のイカ釣り漁業の漁況と、6 月下旬~7 月上旬にかけて日本海沿岸の水産研究所と水産試験場が実施したスルメイカの漁場一斉調査の結果を紹介します。

### 浜田沿岸一本釣り

沿岸一本釣りによって浜田市漁協に水揚げされたスルメイカおよびケンサキイカ (シロイカ) の漁獲量と CPUE (1 日 1 隻あたりの漁獲箱数) の推移を図 1, 2 に示しました。

スルメイカは前年並み、依然として低調。

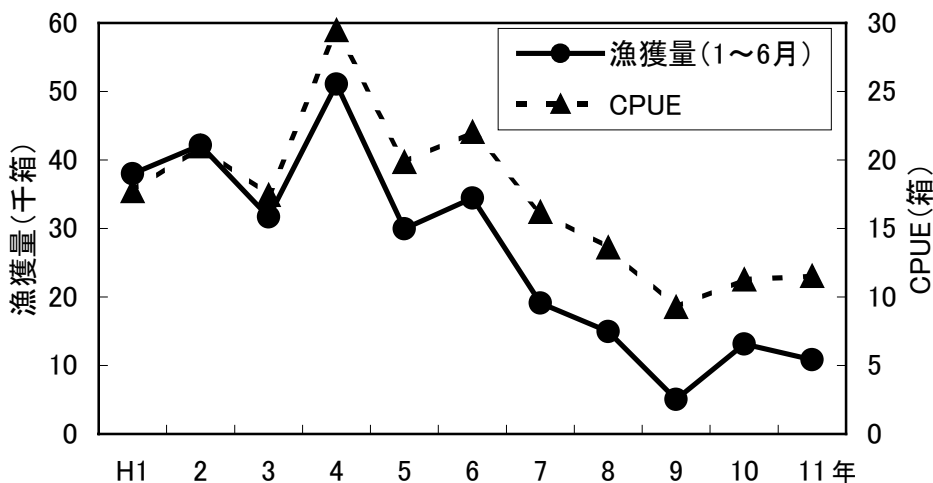


図1 浜田地元小型船によるスルメイカの漁獲状況

平成 11 年前期のスルメイカの漁獲量は 10,837 箱と、前年 (13,123 箱) の 83%、平年 (過去 10 ヶ年平均、27,955 箱) の 39% となりました (図 1)。漁獲量は前年とほぼ同程度でしたが、依然として低い水準となっています。今年の CPUE (1 日 1 隻あたりの漁獲箱数) は 11.5 箱と、前年 (11.0 箱) をやや上回ったものの、平年 (18.8 箱) の 63% と、漁

獲量同様依然として低い水準で推移しています。

### ケンサキイカは好調な滑り出し!

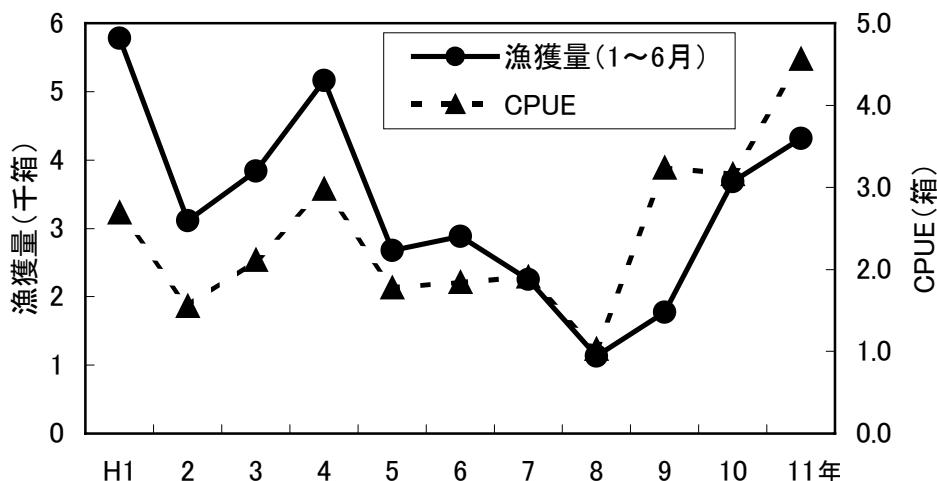


図2 浜田地元小型船によるケンサキイカの漁獲状況

平成 11 年前期のケンサキイカの漁獲量は 4,317 箱と前年 (3,684 箱) の 117%、平年 (3,230 箱) の 134% と好調に推移しました (図 2)。また今年の CPUE (1 日 1 隻あたりの漁獲箱数) は 4.6 箱と、好調だった前年 (3.2 箱) および平年 (2.2 箱) を大きく上回っています。

今後の漁模様ですが、6

月までの漁を見る限り、漁獲量・CPUE とともに前年および平年を上回っており、このままの状態が続けば夏から秋にかけての漁も期待が持てそうです。

## スルメイカ漁場一斉調査

6月下旬から7月上旬にかけて、日本海沿岸の水産研究所と水産試験場がスルメイカの漁場一斉調査を実施しましたので、その結果を報告します。

### 小型個体を中心として資源は高水準！

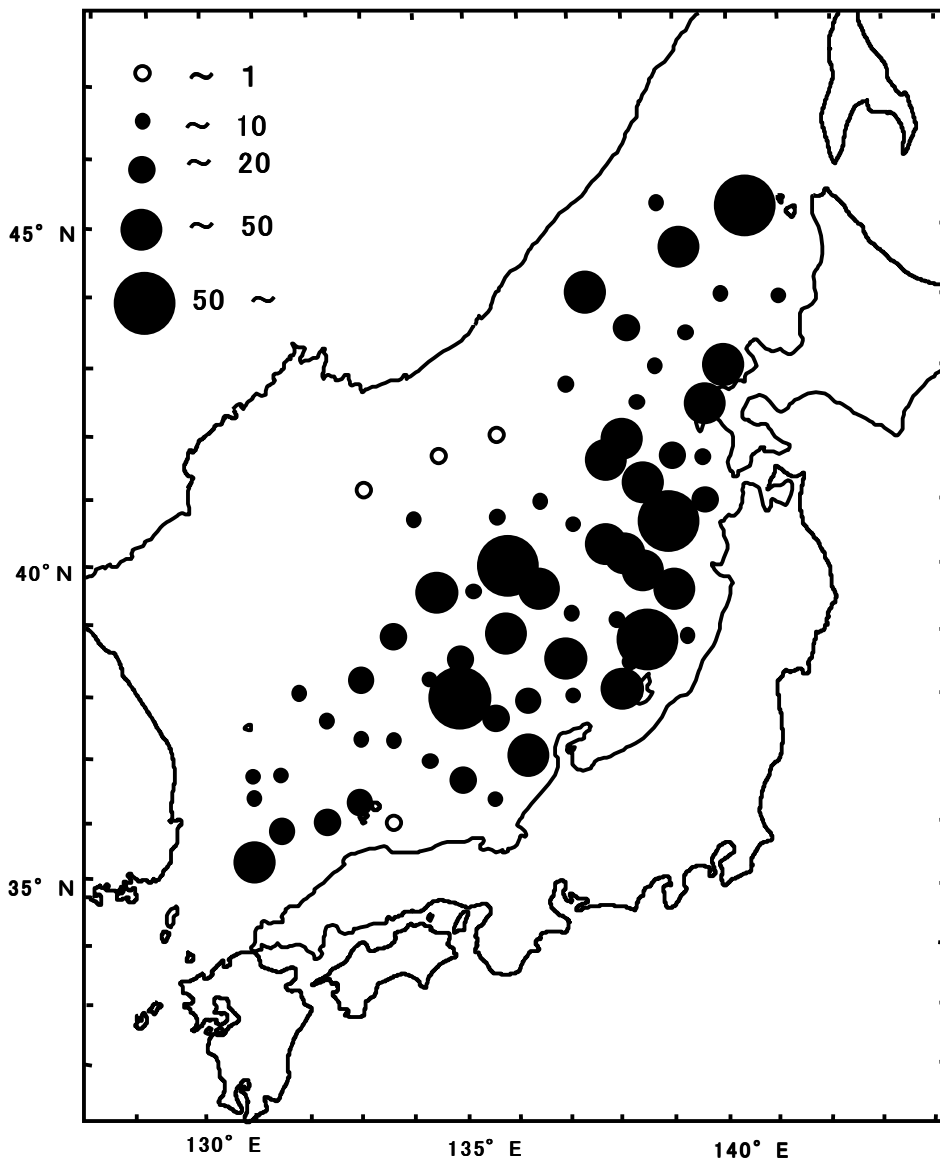


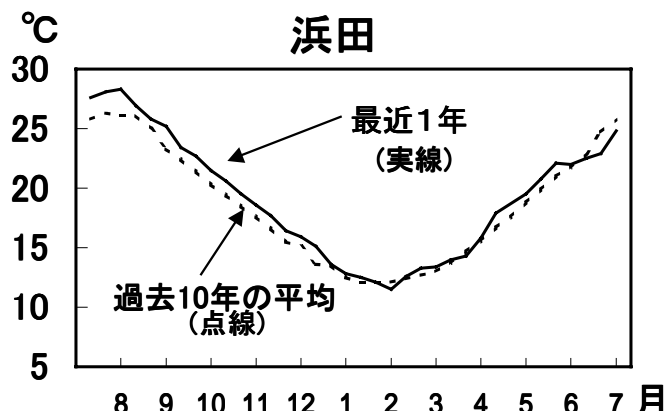
図3 スルメイカ漁場一斉調査によるCPUE（釣り機1台1時間あたり漁獲尾数）の分布

図3に日本海全域のCPUE（釣り機1台1時間あたりの漁獲尾数）の分布を示します。スルメイカの分布密度を示しているCPUEの全調査点の平均値は18.5尾と、不調だった昨年（8.6尾）の212%、1995～1998年の平均値（15.2尾）の121%と非常に高い水準でした。外套長のモード（最も多く出現した大きさ）は18cmと、昨年（22cm）、一昨年（21cm）と比べて小型で未熟な個体が増えています。分布域は北緯37°～41°の海域を中心としており、分布密度は高い傾向が見られます。

今後の山陰沿岸域での漁模様ですが、資源水準は高いものの、主な分布域は日本海北東海域であるため、漁場もまた同海域に形成されると考えられ、しばらくはあまり好漁は期待できないと思われます。しかしながら、秋以降水温の低下とともにスルメイカは南下回遊してきますので、海況

条件が来遊に適した環境になり山陰沿岸域に漁場が形成されれば、日本海全域での資源の高水準を反映し、かなりの好漁になる可能性もあります。

## 《 7月の海況 》



定地水温

	7月	月平均	平年差	評価
浜田		23.4	-1.1	やや低め
恵曇		22.8	-0.3	平年並み

7月の月平均水温は6月に比べ浜田・恵曇ともに1.8 上昇し、浜田では平年に比べ「やや低め」、恵曇では「平年並み」の水温経過となりました。

島根・山口・鳥取の各県水産試験場が行った海洋観測結果(7月下旬～8月上旬)によると、山陰海域の上層の水温は、ほぼ全域で平年並みから平年よりやや低めとなっています。一方、中層および下層は冷水域の周辺では平年より低く、山口県沿岸の下層で平年よりもかなり高くなっているところも見られますが、それを除けば、ほぼ全域で平年よりやや高めとなっています。

日御碕北西80マイルの中層から下層にかけて冷水域が見られます。この冷水域は7月上旬にも観測されましたが、8月はやや離岸傾向にあります。また隠岐諸島北方30マイルの下層にも冷水域が見られますが、こちらは8月になりやや接岸傾向にあります。

## 《 7月の漁況 》

### 【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量は366トンで、前年の34%、平年の19%と、低調に推移しました。水揚げ金額は前年の74%でこちらも低調に推移しました。漁獲の主体はマアジ、カタクチイワシでした。また、恵曇ではマアジ、カタクチイワシを主体に570トンの漁獲がありましたが、前年の40%にとどまりました。浦郷でもマアジ、ウルメイワシ主体に1,363トンの漁獲があり、前年の43%の漁獲となりました。

### 【イカ釣漁業】

浜田港に水揚する地元小型イカ釣り船によるイカ類の漁獲量は、ケンサキイカ(2.0～3.0段主体)を中心に6,640箱で、前年の105%、平年の70%とやや低調に推移しました。浜田市漁協以外の小型イカ釣り船では、ケンサキイカ(2.0～3.0段主体)・スルメイカ(20～25入り主体)を中心に15,194箱の漁獲があり、前年の54%、平年の58%と低調に推移しました。また、西郷港における沿岸の小型イカ釣りによる漁獲量はスルメイカを中心に78.2トンで、前年の466%と非常に好調に推移しました。

### 【バイかご漁業】

県西部バイかご漁業(5隻、仁摩町漁協は除く)におけるエッチュウバイの漁獲量は26トン(前年比:90%)、水揚げ金額は1,562万円(前年比:82%)で、量・金額とも前年を下回りました。漁獲量については航海数が前年より少なかったためであり、1航海当たりの漁獲量は0.49トン(前年比:108%)で前年を上回りました。近年、増加傾向にあるエビ類の漁獲量は1.5トン(前年比:72%)、水揚げ金額は335万円(前年比:111%)で、量は前年を下回りましたが、水揚げ金額は前年を上回っています。

### 【シイラまき網漁業】

仁摩・五十猛・和江・大田市各漁協の合計の水揚げは383トン、6,023万円と、漁獲量は昨年を約40%上回りましたが、水揚げ金額は昨年を30%下回りました。漁獲量の98%がシイラでヒラマサはわずかに2%弱

となっています。シイラは昨年・一昨年を大幅に上回りましたが、逆に単価の高いヒラマサが減ったため水揚金額の減少となっています。1隻当りの水揚金額は670万円と、好調だった昨年・一昨を下回りました。

### 【定置網漁業】

恵曇だけは量、金額とも前月に比べ大きく伸びているものの、浦郷、浜田は前月に比べ量・金額とも50%~80%と低調な漁況となっています。恵曇では、生産金額が1372万円と1千万円の大台を越えマアジ、ウルメイワシ、トビウオ類などを中心に好調な水揚を示していました。一方、浜田ではブリ類だけは前月からの好調な水揚が続いたものの、主要魚種であるマアジの漁獲量が平年の9%と極めて不振でした。浦郷でも、マアジの漁獲量は前月に比べて大幅に減少しています。

### 【釣・縄】

沿岸の釣は出漁日数が平年を下回ったものの、漁獲量・水揚金額ともにほぼ平年並みで、平均的な漁模様となっています。浜田はケンサキイカ、アマダイ、キダイを中心に26.2トン、2,800万円の水揚で、量・金額ともにほぼ平年並みでした。五十猛はケンサキイカ、カサゴ類、アマダイ主体の漁で、11.7トン、1,130万円の水揚で、量は平年並みだったものの金額は平年をわずかに上回りました。

### 漁獲統計

平成11年7月1日~31日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航 海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	65	マアジ・カタクチイワシ	5.6ト	366ト
	恵曇	136	マアジ・カタクチイワシ	4.2ト	570ト
	浦郷	108	マアジ・ウルメイワシ	12.6ト	1,363ト
イカ釣り	浜田(沖合)	194	ケンサキイカ・スルメイカ	78.3箱	15,194箱
	浜田(沿岸)	419	ケンサキイカ	15.9箱	6,640箱
	西郷	455	スルメイカ	172kg	78.2ト
バイかご	大田市	26	エッチュウバイ	558Kg	14.5ト
	和江	14	エッチュウバイ	529Kg	7.4ト
	平田市	13	エッチュウバイ	315Kg	4.1ト
シイラ巻き	仁摩	21	シイラ・ヒラマサ	1,881kg	39.5ト
	五十猛	40	シイラ・ヒラマサ	2,150kg	86.0ト
	和江	84	シイラ・ヒラマサ	2,405kg	202.0ト
	大田	20	シイラ・ヒラマサ	2,760kg	55.2ト
定量網	恵曇	80	マアジ・カタクチイワシ・トビウオ類	413kg	33.1ト
	浦郷	24	マアジ・ケンサキイカ・ソウダガツオ	748kg	18.0ト
	浜田	69	ブリ・マアジ・ケンサキイカ・ヒラマサ	461kg	31.8ト
釣・縄	浜田	1,535	ケンサキイカ・アマダイ・キダイ	17.1kg	26.2ト
	五十猛	558	ケンサキイカ・カサゴ類・アマダイ	21.0kg	11.7ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。